

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 小谷 俊雄

主査 教授 清水 宏
審査担当者 副査 教授 西村 正治
副査 教授 清野 研一郎
副査 教授 有川 二郎

学位論文題名

強皮症の間質性肺病変に関連する因子

全身性強皮症 (systemic sclerosis: SSc) は、微小血管傷害、皮膚の線維化と特有の内臓障害を特徴とする自己免疫性の結合組織疾患である。その中で間質性肺病変 (interstitial lung disease: ILD) は強皮症患者の 50%以上に合併する最も深刻な合併症の一つであるが、本研究において強皮症の ILD に対する造血幹細胞移植(hematopoietic stem cell transplantation: HSCT)の有用性を示した。さらに強皮症患者の末梢血単核球における遺伝子発現の網羅的解析及び HLA ゲノタイピングを行い、*HLA-DRB5*01:05* アリルが強皮症 ILD における独立したリスク因子であることを証明した。

学位審査会に際し、副査の清野研一郎教授から、自己免疫疾患における HSCT の位置づけ・治療成績に関する質問がなされた。副査の有川二郎教授からは、他疾患における *HLA-DRB5* の関連や、モデル動物における検討について質問がなされた。副査の西村正治教授からは、画像所見の改善と肺拡散能の変化率の結果に解離が出た理由について、また *DRB5*01:05* が ILD の発症に関与する理由につき質問がなされた。主査の清水宏教授からは、HSCT が強皮症に対して有効である理由、HSCT のソースとして自家移植を選択した理由について質問がなされた。これらに対して申請者は、実験成績と過去の文献を引用し、丁寧かつ適切に回答した。

この論文は、強皮症関連 ILD に対する有効な治療法に加え、ILD におけるリスク因子の一つを解明したものとして高く評価され、今後更なる解析により強皮症関連 ILD の治療成績の向上に寄与されるものとして期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。